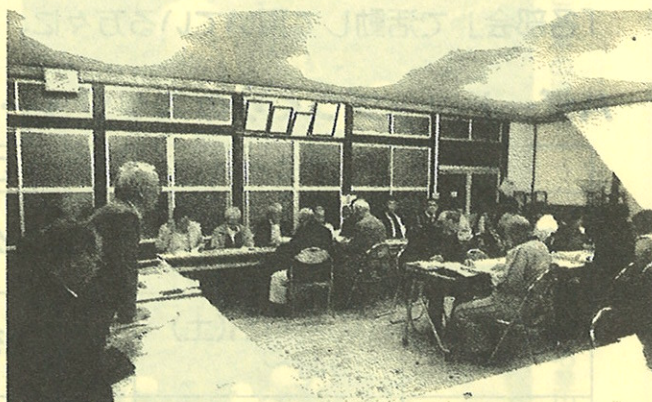


自分たちの地域は自分たちでつくる 目標に向かって2年目の取り組み順調

2012年1月発足した城見地区まちづくり協議会は、その目指すものとして「自分たちの地域は自分たちでつくる」という市民主体の自治の考え方が基本・原点です。「安全で安心してらせる」「地域への愛着が生まれ温かい心が通い合う」まちづくりに取り組み、少しずつ成果をあげています。

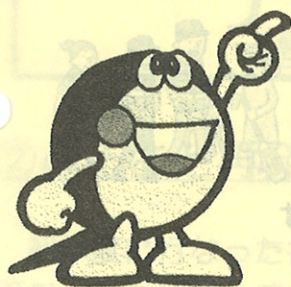
今年度は目標達成のために、昨年に引き続き「安全・安心」部会、「ふれあい」部会を設け活動の活性化、参加率の向上、充実化を図るよう工夫しています。「まちづくりはいろんなことをやっておられるんですね。」と評価をいただく一方、「何をしようんかよう分からん」との声もあります。

役員会としては、より多くの住民の方が「住んでいてよかった」と感じられるよう、あくまでもボランティア精神、助け合い精神を基本にすすめていきます。活動などに対する疑問や意見を事務局に届けていただけることを切に求めています。どうぞよろしくお願いします。



平成25年度 城見地区まちづくり協議会総会

三島市長との懇談会開催の予定



「広報かさおか8月号」に標記の会のお知らせがありました。城見としては積極的に市長との話し合いの場を望んでいます。まちづくり協議会の取り組み・運営は市民の税金でまかなわれています。

まちづくりの活動が税金の無駄遣いになってはなりません。動き始めたばかりのまちづくり協議会ですが、行政としっかり話し合い「市民主体の自治」の確立に向け方向性をしっかり見つけることが大切です。

11月27日(水)午後7時30分から城見公民館で予定しています。詳しい内容、出席者については今後役員会で協議します。



情報の共有めざし、活動事例報告会の開催

協働のまちづくり課主催の活動事例の報告会が10月5日 午後1時、グランドホテルで開かれます。市内24地区のまちづくり協議会が正式に発足して1年になります。

私たち城見地区まちづくり協議会では、各地区の自治会長を中心に役員会で知恵を出し合って活動を進めています。この間「他の地区の活動」に学ぶことの大切さ、必要性を感じていました。

この度「活動事例の報告会」が開かれることによって、私たちの活動の宣伝と新規事業への大きなヒントになることが期待されます。私たちは、かわら版を中心に活動報告を加藤会長が行います。会の報告は次号かわら版に掲載の予定です。

安全・安心部会の実行計画

ハザードマップ作成に力点 部会の全総力で!!

がけ崩れ、浸水、ため池の決壊、津波など城見地区にも危険な箇所があります。今年度は専門家(NPO)の指導のもと、長期にわたって活用できるハザードマップ作りを目指しています。「各部会」で活動して頂いている方々に、お骨折りを頂き、次の表の計画で進めます。

ハザードマップづくりのスケジュール

	日 時	と ころ	内 容
第1回	9月27日(金) 19時～	用之江公会堂	手法の理解とMAPの必要性について学習
第2回	10月26日(土) 9時～	地区内を歩く	みんなで危険箇所の体験など
第3回	11月中旬	用之江公会堂	図上訓練

犯罪ゼロ、交通災害ゼロ活動

取り組みに工夫を加え、連携強化!



通学路パトロール、地域パトロールの充実と連帯感を高めるために、各地域40枚の蛍光塗料付チョッキを新たに加えました。部会で要望のあった記録ノートと連絡票を導入し、活動がスムーズに行われています。さらにパトロール責任者への支援・応援体制を確立し、年間を通じ延べ活動者300人を目指します。

今までのパトロールで

- ①道路の舗装不備
- ②安全柵の不備
- ③落書きや、ごみ処理の不備
- ④高齢化対応の必要性

貴重な指摘と解決の方向付けを
頂いています
出来ることから実施していきます



火災ゼロ、自然災害ゼロ活動

4地区合同の消防訓練を計画

と き 11月17日(日) 10:00～12:00
と ころ 大宜集会所前広場
内 容 訓練のつば講話、実際の消火訓練

地区の住民のみなさんのより多くの
参加をお待ちしています。



ふれあい部会の実行計画

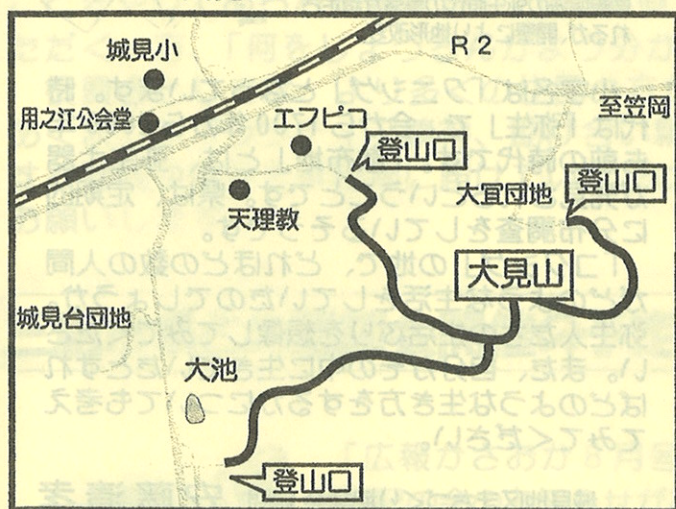
初年度からの2つの取り組みは今年度でハード面は達成できます

①大見山の登山活動

予算面で厳しさも予想されていましたが、展望台の建設ができることとなりました。材木は菅原神社の間伐したヒノキの提供を受け展望台の材料に加工しています。展望台の設置は10月12日(土)の予定です。活動の支援を別途要請いたしますのでよろしくお願いします。

前年度は仮設トイレ、今年度は展望台。子どもたちの登山も期待でき、年代を超えたふれあいの場がひとつ増えることとなります。

大見山への3ルート



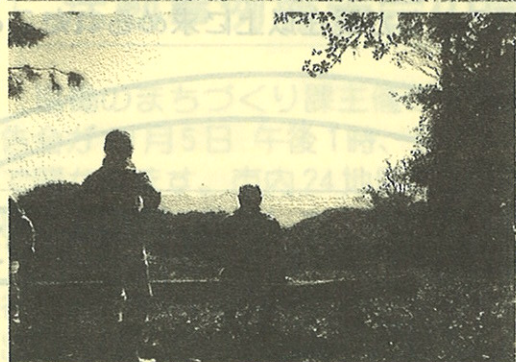
神社のヒノキの搬出



小学生も登山



大見山の説明板



頂上からの見晴らし



茂平八幡神社

②ふるさと再発見と健康ウォーク

初年度に行なった各地区のコースを整理した散策マップも完成します。散策に絶好の季節にはより多くの参加者があることを願っています。

そして、ふるさと再発見については、かわら版の「ふるさと城見のあれこれ」を執筆されている安藤清孝先生に「城見の歴史をひもとく」講演会をお願いし、先日 終わったところです。

また、大見山にもっともっと親しみをもっといただくために写真を募集しています。

詳しくは折り込みのチラシをご覧ください。

ふれあい部会の活動は第3日曜日を基本に考えています。



～城見の夜明け～

城見地区に人間が姿を現し、集落を形成して生活するようになったのはいつの頃からなのでしょう。そして、それはどこの地域だったのでしょうか。

県が「おかやま全県型GIS」で、県の埋蔵文化財地図をネットで提供していますが、それを見ると、茂平の「国繁」に弥生時代の集落があったことが分かります。今回は「国繁」の弥生遺跡について紹介します。

私たち城見の夜明けは「国繁」にはじまったようです。干拓が完成するまで、城見地区でもっとも交通不便な地が、実は一番最初に人間が住み着いた人間の生活環境として最も優れた土地であったのです。

今、「水と緑のふれあい広場」あたりを自動車で走りながら、昔の海岸線のことを考えてみると、二箇所ばかり入り江がかなり深く食い込んだ箇所があります。潮の干満により運んでこられ、また取り残される海藻や貝類や小魚を食糧としたであろう古代人たちが、もっとも生活しやすい場所と思われるような地形です。「おかやま全県型GIS」もそこをしめしています。現在居住者があるのも、かつてのその入り江あたりです。

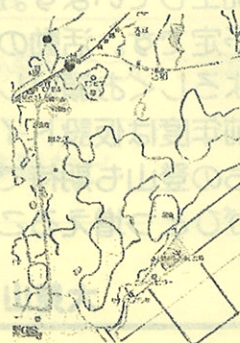
弥生の古代人たちはどんな生活をしていただのでしょうか。食糧が得やすく、自然から守られるような場所で、草木で小屋を作って雨露を凌いでいただのでしょうか。人間が生活しはじめた地は「衣食住」の条件がよいということが現在以上に求められたこと

でしょう。今では人間は80年ほどを生きるのですが、その頃は30年を生きることさえ難しかったようです。

それでは、「GIS」は国繁遺跡のことをどう紹介しているか見てみましょう。

- | | |
|--------|--------|
| ・遺跡名 | 国繁遺跡 |
| ・フリガナ | クニシゲ |
| ・代表的種別 | 散布地・集落 |
| ・詳細な種別 | 散布地 |
| ・主な時代 | 弥生 |
| ・主な出土品 | 弥生土器 |
| ・遺跡概況 | |

干拓地に面する独立丘陵およびその南麓臨海の弥生時代の集落が想定されるが、開墾により地形改変。



小字名は「クニシゲ」となっています。時代は「弥生」で、今から1700年から2000年も前の時代です。「散布地」とは、弥生土器が発見されるということです。県は、定期的に分布調査をしているそうです。

「クニシゲ」の地で、どれほどの数の人間がどのような生活をしていただのでしょうか。弥生人たちの生活ぶりを想像してみてください。また、自分がその中に生きていたとすればどのような生き方をするかについても考えてみてください。

城見地区まちづくり協議会 顧問 安藤清孝

今後の主な行事予定

ふれあい部会

- 10月12日(土) 大見山一斉草刈り
展望台の据え付け
- 11月 3日(日) 大見山登山
- 11月19日(火) 応募写真の受付
- 11月24日(日) 文化祭で写真展示・表彰
- 12月15日(日) 用之江めぐり
- 1月 5日(日) 大見山3ルートから登り、新年の集い

安全・安心部会

- 10月26日(土) ハザードマップづくりで地区内を歩く
- 11月上旬 ハザードマップづくり(図上訓練)
- 11月17日(日) 消防訓練(大宜集会所前広場)

城見地区まちづくり協議会

笠岡市用之江334番地 TEL0865-66-5133

毎週火曜日の午前9時から12時まで在室しております。
お急ぎのご用件等は、まちづくり協議会の郵便受けをご利用ください。